

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月2日

提出区分	実績	整理番号	17	課題区分	A	松本地域振興局		
横断的な課題								
地域重点政策						中山間地域の魅力向上		
実施機関			松本農業農村支援センター			担当課	所属	松本農業農村支援センター
事業名			スイカ炭疽病対策実証試験委託事業				電話	0263-40-1948
						E-mail	matsumoto-nogyo@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	気象観測機器を活用したスイカ炭疽病等の発生予察及び適期防除によるすいかの生産安定						
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・松本地域は県内のスイカ生産量の98%(R3、管内JA取扱ケース数)を占める産地であるが、令和3年産は8月の大雨の影響等により、スイカ炭疽病による腐敗果が多発した(JAからの販売先である市場に届いた後で果実が発病し割れたり病斑が現れる等が生じ、商品価値が無くなる)。また、それを廃棄したり洗浄するコストがかさむなどのクレームがJAへ寄せられている(令和3年度911件)。 ・スイカ炭疽病の対策となる農薬散布などの作業は農家が責任をもって実施している。一方、適切な散布時期の検討、周知はJAが責任を持ち指導している。県は防除が適切に行われるよう、試験場で新しい農薬の検討や防除技術を開発し、それを農業農村支援センターが現地指導、検証することを担っている。 ・近年は夏季の多雨や長雨の中で、従来通りの薬剤選定・散布時期・散布間隔では対策(防除)が難しくなっている。また、農薬を必要以上に使用すること無く、産地全体でスイカ炭疽病をはじめ病害虫の対策を行い、高品質なすいかを生産することがJAの販売先である市場から求められている。 ・山形県等のすいか産地では気象観測機器を活用したスイカ炭疽病の発生予察及び適期防除が普及しているが、当管内では導入されていない。 ・すいかは松本地域の極めて重要な野菜品目であるため、まず地元の松本地域振興局でできる対策をとり、産業振興に寄与する必要がある。 						
概要	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・2カ所の畑にクロープナビ(注)を設置し、スイカ炭疽病の発生予察を行う。同時に、他病害の発生予察が可能か検討する。(注 長野県農業試験場が県内企業((株)アスザック)と共同開発した気象観測機器。昨年度地域振興推進費で導入し、3月の育苗期から観測・発生予察を開始中。) ・1カ所に調査ほ場を設け、発生予察の精度検証のために、慣行防除区と、予察に基づく新たな防除技術の比較実証区(新体系防除区)とで、調査を実施する。 ・クロープナビによる観測データ及び予察の結果は管内JA、野菜花き試験場等と情報共有する。また、JAから管内生産者への周知を行い、産地全体の適期防除、品質安定につなげる。 ・JAは令和4年の1年間でしっかりした防除技術を組み立てる必要に迫られているが、そのために必要な知見を得る手段として、本事業への期待が大きい。 						
	事業期間	令和4年6月 ~ 令和5年2月						
事業費	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考				
	スイカ炭疽病対策実証試験委託事業	生産者を選定し、試験区及び慣行区の設置と防除に係る作業等を委託	250,000	ほ場使用料、管理作業労賃、農薬費、すいか調査サンプル代金				
合計			250,000					
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況			
	防除効果の高い薬剤の選定		1系統	4系統選定	● 達成			
	スイカ炭疽病発生予察情報の、JA部会員への周知		1回以上	7回	○ 一部達成			
	新防除体系区のスイカ炭疽病等の発病果率低減		発病果率が慣行防除区の20%以下	病害発生なし	○ 未達成			
スイカ炭疽病に対するクレーム件数		184件 (R3年比80%減)	1件					
事業実績・成果	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 薬剤効果確認(野菜花き試験場協力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年7月8日~8月8日の間に、8系統の薬剤で効果の比較試験を実施した。 <p>(2) スイカ炭疽病の発生予察情報と適期防除の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年3月23日~9月29日まで発生予察を行い、その間に合計7回、JAから生産者に対して発生予察情報及び適期防除の周知を実施した。 <p>(3) スイカ炭疽病発生状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年7月1日~8月16日の間に、ほ場でのスイカ炭疽病発生状況を調査した。 ・令和4年8月23日~30日の間に、収穫後のスイカを、ほ場及び出荷用段ボール箱内で経過観察した。 ・今年度は令和3年度と比較して8月の降雨が少なく、調査ほ場では慣行防除区と新防除体系区のどちらもスイカ炭疽病の発生は確認されなかった。 <p>(4) 調査結果の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年2月20日のJA松本ハイランドすいか部会総会、27日のJA松本ハイランドすいか部会防除講習会で調査結果等を情報共有した(参加者合計131名)。 <p>2 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当管内のスイカ炭疽病に対して効果の高い薬剤を選定することが出来た。また、今年度は好天に恵まれたことに加えて、JAからスイカ炭疽病の発生予察と適期防除の情報提供を行ったことにより、生産者の防除意識が向上した。その結果、産地全体でスイカ炭疽病の発生が少なくなり、市場からのクレーム件数は大きく減少した。 							
	今後の方向性	・クロープナビによるスイカ炭疽病発生予察の精度向上と、発生予察に基づく適期防除の定着に向けて、引き続き調査を実施する。						